

IT業界には、映像という名の魔物が棲むという

～ハリーポッターはいつ現れるのか？～

CD-ROMで映像を、の夢

コンピュータの世界には、魔物が棲んでいます。「映像」という名の魔物です。

あるいは、「映像をコンピュータで配信できたら、素晴らしいと思わないか？」と囁き、人々の判断を迷わす魔物がいると言ったほうがいいかもしれません。

CD-ROMが世の中に出始めた時、「AVパソコン」だとか、「マルチメディア」という言葉がもてはやされました。

ちょっと難しい言葉では「インタラクティブ」なんていう言葉も流行りました。

「CD-ROM搭載で、PCはエンターテイメントになる」とか、「スイッチを入れると、そこは映画館」のようなキャッチもあったように記憶しています。

しかし、いったい何人の人が、当時14インチ程度、解像度も1024*768のCRTで映像を見たのでしょうか。

CD-ROMが一般化してから10年です。

CD-ROMはマルチメディアデバイスとしてではなく、インストールデバイスになりました。当初考えられていた、CD-ROMの活用方法と

はまったく違ってきます。

CD-ROMで映像を、と夢見た人々の夢は儚く破れたのです。

「インターネットで映像配信」を夢見ているエンジニア、経営者が何人もいます。

いつかインターネットで映像配信される、ということは、いつか、月旅行ができる、ということと同じ位、確かなことでしょう。

実現自体は必ずされることであると思います。

大事なことは、それをいつ、誰が、どのように実現するかということなのです。

携帯電話で映像を、の夢も破れる。。。

ドコモのFOMAが、大苦戦だそうです。

インターネットプロバイダーの社長をしている私としては、次世代携帯FOMAを使うべきだろう、とFOMAを使っています。

電池が持たない、電波が入らない場所が多い、重い、というFOMAですが、そんな欠点も昔の携帯のようで、気に入っていたりします。

FOMAの売りは、映像です。動画を送れ、TV電話ができるというのが大きな特徴です。

一方、先行したライバル、写メールは静止画です。

静止画で出遅れたドコモは、一気に静止画を飛び越して動画配信のFOMAを世に送り出したのです。

が、結果は、動画配信の惨敗でした。

映像という魔物に魅せられると、動画配信をするということ自体が究極の目的になり、それが市場に受け入れられるか、とか、コスト的に見合うのかということに考えが及ばなくなります。

巨人ドコモも映像という魔物に敗れたのです。

未来からハリーへの感謝状

2003年、ブロードバンドが普及し、ほぼインフラは整ったと言えます。

あとは、魔物を倒すハリーポッターが現れて、TV放送に代わるような魅力ある動画配信をしてくれるのを待つだけです。

気の早い私は、そんなハリーに感謝状を用意しました。

「あなたは、多くのエンジニアが挑んで敗れた、動画配信を商業的に大成功させ、世界中の人々に楽しさを与えました。ここに感謝状を贈呈します。」